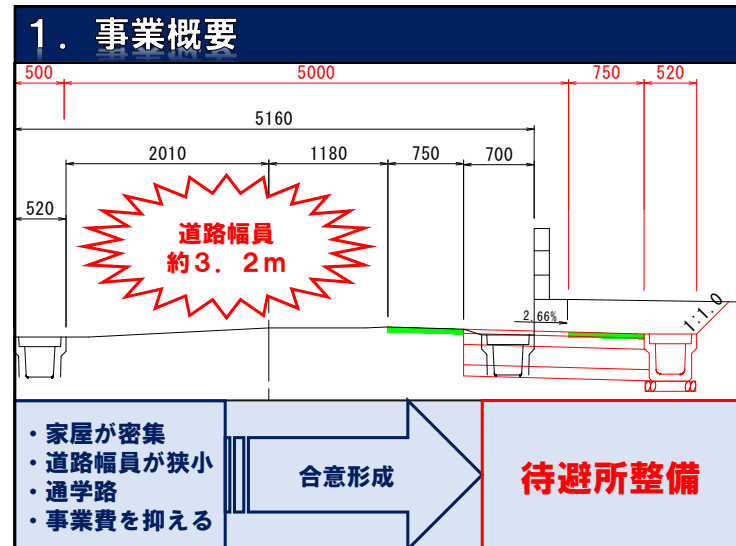




発表内容

1. 事業概要
2. 設計の進め方
3. ワークショップ形式による説明会
4. まとめ



2. 設計の進め方

従来は・・・

行政の計画があり、その計画に基づいて住民へ説明し、理解を求めながら事業を実施していく。

課題

- ・計画が前提にあるため、**住民の意見や要望は十分に反映されにくい。**
- ・住民に反対された場合、理解を得るための**説明会を数多く開催しなければならない。**
- ・**地域ごとの住民ニーズの多様化や複雑化**により、細やかに事業を進めることが難しい。

3. ワークショップ1回目

待避所整備位置の抽出及び選定



2. 設計の進め方

【地元目線】

- ・待避所整備の目的は、住民ニーズへの対応。
- 地域の課題は、道路利用者である住民が最も知っている。
- 生活道路での対策となるため、住民の関心が高い。

住民とのコミュニケーション必須

地域住民とのワークショップ形式による設計検討

- ・効果的な整備位置に関する意見
- ・地権者等の情報

【素人目線】

- ・完成後のイメージを可視化することで、利用者の理解度を深める。
- 3D画像により完成後のイメージを共有し、課題を整理。

3D画像を使用した意見交換

- ・視覚的に理解することで具体的な意見を引出す

3. ワークショップ1回目

待避所整備位置の抽出及び選定


ワークショップ前

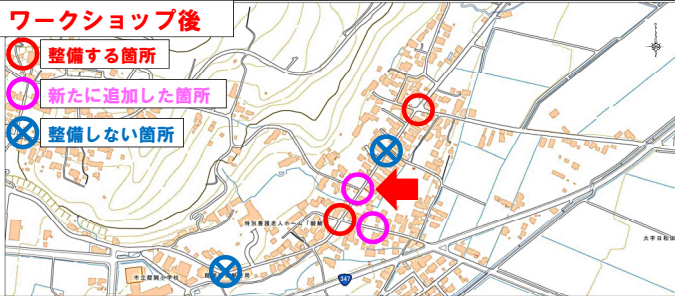


3. ワークショップ1回目

待避所整備位置の抽出及び選定

ワークショップ後

-  整備する箇所
-  新たに追加した箇所
-  整備しない箇所



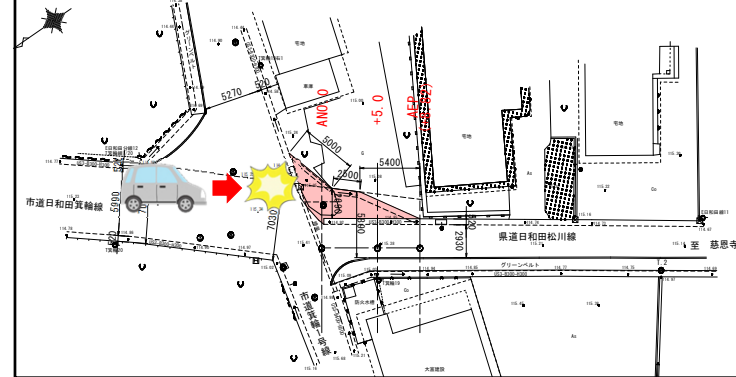
- ・地域住民ならではの意見により、利用形態に合わせた整備位置を抽出することができた。
- ・設計前に地権者の情報を得られたため、コスト削減及び用地交渉の円滑化に繋がった。

3. ワークショップ2回目

設計に関する意見交換

待避所整備

交差点改良



3. ワークショップ2回目

設計に関する意見交換

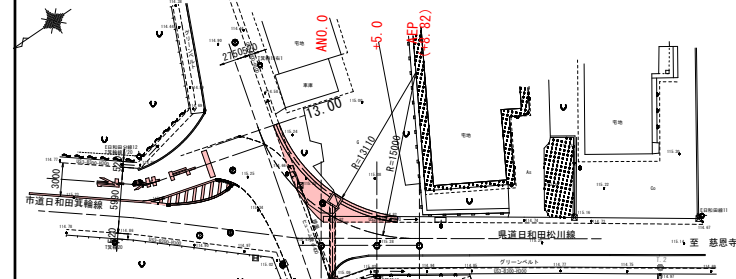


3. ワークショップ2回目

設計に関する意見交換

待避所整備

交差点改良



地域で抱える問題を意見交換することで、その現状に合わせた整備内容に変更することができた。

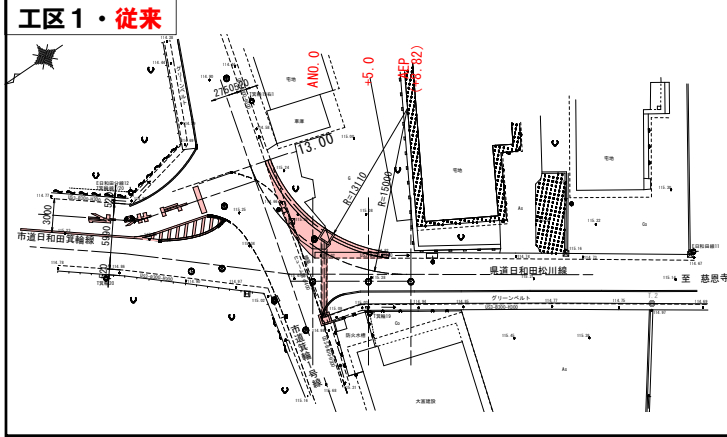
3. ワークショップ3回目

3D画像による設計案の確認



3. ワークショップ3回目

3D画像による設計案の確認



3. ワークショップ3回目

3D画像による設計案の確認

工区1



3. ワークショップ3回目

3D画像による設計案の確認

工区1・3D画像



3. ワークショップ3回目

3D画像による設計案の確認

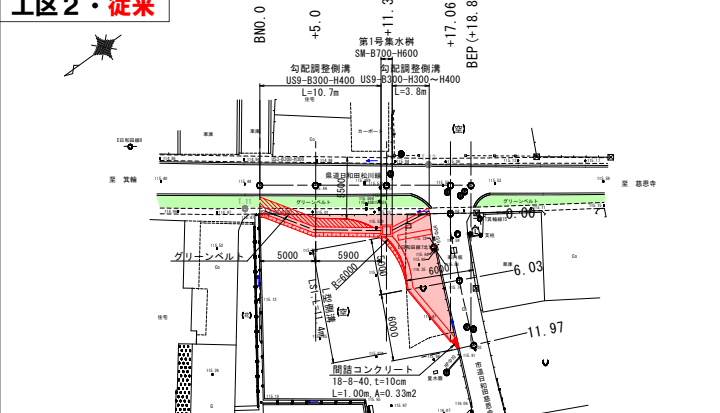
工区1



3. ワークショップ3回目

3D画像による設計案の確認

工区2・従来



3. ワークショップ3回目

3D画像による設計案の確認

工区2

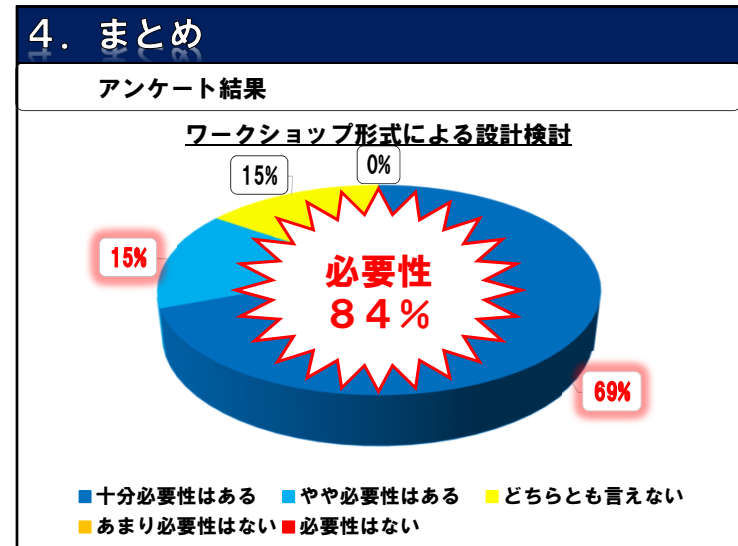


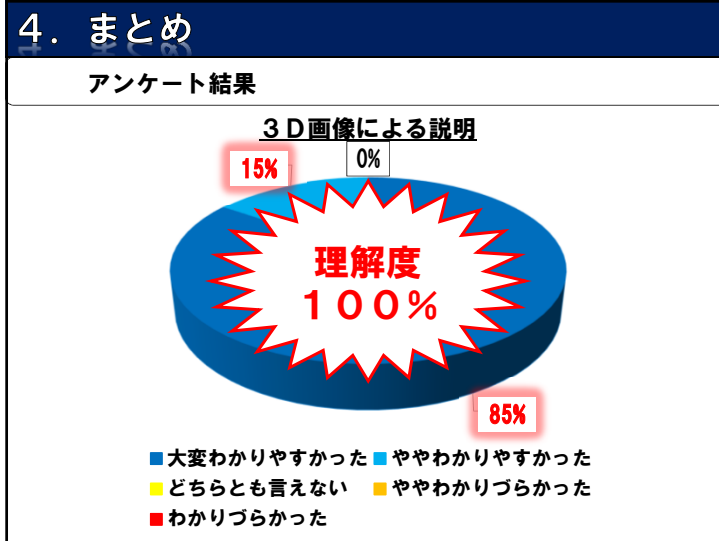
3. ワークショップ3回目

3D画像による設計案の確認

工区2・3D画像







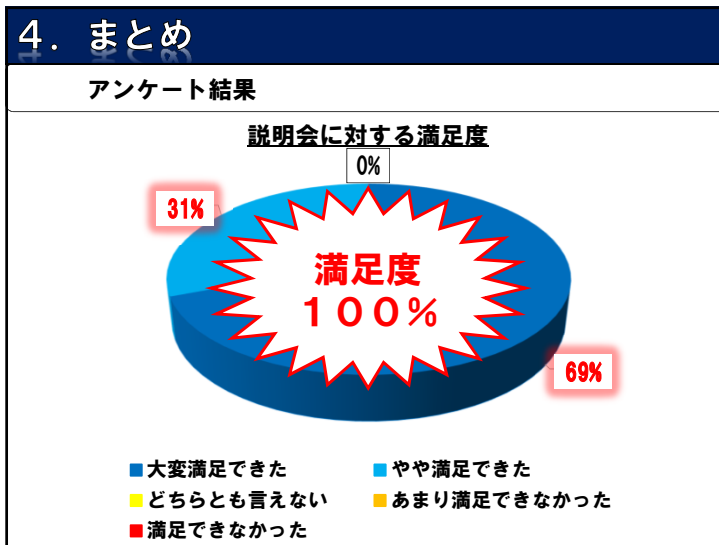
4. まとめ

成果

- ワークショップ形式による設計を行うことができたため、**住民ニーズに合ったより効果的な設計を検討することができた。**
- 3D画像による説明を行ったことで、**完成後のイメージを可視化し、設計に対する理解をより深めることができた。**

課題

- 住民ニーズと原則とのバランスを調整する必要がある。



ご清聴ありがとうございました